

防災

特集

あるかもしれない
未来に備える

世界各地で新型コロナウイルス感染症が広がり、国内でも感染者が1・7万人、死者が9百人を超えるなど、長期にわたり厳しい状況が続いています。この状況下の中「災害は起きないから」、「周りに感染者はいないから」ではなく、最悪の事態が「もしも」起こったらを想定し、あるかもしれない未来について考えてみましょう。



地震

台風

豪雨

災

害大国と呼ばれる日本。地震や台風、豪雨と多くの自然災害が全国で多発しています。

「自助」、周りの人との助け合い「共助」です。自分と家族の大切な命を守るために、日頃の備えをもう一度考えてみませんか。災害はいつ起こるかかわりません。

2011年の東日本大震災や2016年の熊本地震では、多くの建物が倒壊し、尊い命が奪われました。さらに近年では、「過去最大の雨量を観測」というニュースが全国から毎年のように聞こえてきます。自然現象は人間の力では止められません。しかし、災害による被害は「日頃の備え」によって最小限に食い止めることはできます。大災害が起これば、被害は多岐にわたり、交通網をはじめ、電気やガス、水道といったライフラインの寸断が想定されます。こうした状況の中では救急や消防などの「公助」には限界があります。その時に生きてくるのが、自分の力で自分の命を守る

CHECK 命を守るための3つの「助」

- 自助** 7割
自分の力で自分の身を守る
 - 共助** 2割
近所や地域と協力して身を守る
 - 公助** 1割
国や自治体の支援を受ける
- 国の防災白書によれば、阪神淡路大震災時の7割弱が「自助」3割が「共助」による救助でした。「公助」は数%しかなかったそうです。災害を自分事と考え備えましょう

過去の災害から命を守る教訓を学ぶ

記

元和にも新しい、令和元年10月12日の「台風19号」。全国的に広い範囲で大雨や強風をもたらしました。特に関東地方ではこれまで経験したことのないような記録的な大雨となり、館林観測所では観測史上最大の1日総雨量228mmを記録し、1時間あたりの最大降水量も30・5mmの豪雨となりました。近隣の自治体では、河川の氾濫や堤防の決壊など大きな被害

がありました。未曾有の豪雨でしたが、邑楽町では建物の倒壊や河川の氾濫などはなく、床下浸水の被害が数軒あったものの、その他は道路の冠水、倒木などの被害にとどまりました。しかし、この結果は事前の備えや幸運がもたらしたものでした。利根川上流の下久保ダムやその他のダムが緊急放流を行わなかったこと、供用開始前の八ッ場ダムが雨水をため込めたこと、氾濫直前で雨量が減少したことなど、多くの要素が重

なったことで被害が少なかったと考えられます。こうした状況の中、町の対応としては避難勧告や指示などの避難情報の発令には至らず、自主避難所の開設のみにとどまりました。しかしながら状況次第では、避難情報の発令も十分あ

り得たという、緊張感の中での対応でした。突然起こる不測の事態で生命や財産を守るためには、過去の事例から安心するのではなく、それを教訓として「あるかもしれない未来」を想定し、備えておくことが大切です。

CHECK 自主避難所とは

自主避難所は避難所と違い、避難勧告などが発令される前に設置します。避難に時間がかかる高齢者や障がい者、子ども連れ、自主的に避難が必要と感じた人などを受け入れる場所です。避難所と同様に避難者自身に必要なものを準備して避難をしてください。



【台風19号から一夜開けた朝のようすから見る町の状況】
①坪谷地内では田んぼにたまった雨が水位が下がった川に流れこんでいた ②鶉地内では矢場川に流れ込めなくなった排水が逆流し、道路などが冠水 ③消防団の車両がたまった水を川に排水していた ④役場南の中央公園の調整池は本来の機能を果たし、遊歩道が見えなくなるくらい水をため込んでいた

Interview 災害への備えを 邑楽消防団 大塚 栄彦 団長 (前台東原・2区)

邑楽消防団は121人の団員で構成され、災害時には団員を招集し対応にあたります。台風19号では河川の巡視や倒木・冠水箇所の状況確認などを実施しました。今後も行政と連携するとともに、水防訓練などを実施し地域の安全・安心のために尽力していきます。皆さんも普段から「地震・台風・豪雨などは必ず来る」と考え、災害への「意識」と「備え」を忘れないでください。



おおつか・ひでひこ ●消防団の活動を始めて33年目。平成21年から邑楽消防団副団長、平成29年から団長を務める。



主な避難所はこちら

中野小学校 高島小学校 長柄小学校 中野東小学校
 邑楽中学校 邑楽南中学校 中央公民館 町立集会所
 町共同福祉施設 長柄公民館 高島公民館
 福祉センター寿荘 町民体育館 武道館 保健センター
 ※避難情報が発令されても上記の避難所全てが開設されるとは限りません。町から発信される情報を随時確認してください。

04 町の避難所が開設されたとき 感染症対策などを実施

町の避難所が開設された場合、人が集まるため感染症のリスクは高まります。避難者の受け入れは収容人数を減らし、感染症対策を実施しながら対応していきます。なお、自宅での安全確保が可能な場合は感染リスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。

対策1

【ゾーン分けの実施】

避難所は人が密集しやすく、不特定多数の人が来ることが予想されます。発熱がある人や感染の疑いがある人などは部屋を変えたり、過ごすスペースを分けるなど、ゾーン分けを実施し感染症対策を行います。

●ゾーン分けイメージ



対策2

【段ボールベッドの設置】

避難所では、高齢者が寝起きしやすく、床からの冷え対策や床にとどまるウイルス対策のため、段ボールベッドを設置します。



対策3

【パーティションの設置】

避難所でのプライバシーの確保や咳やくしゃみなどの飛沫を遮断するためにパーティションを設置。人との距離も確保できるため「密」を防ぐこともできます。



※対策2・3は事業者との災害協定に基づき、発災後の準備となります。

災害情報の入手手段の確認を
 町では災害発生時の危険が高まると、さまざまな関係機関との連携により、情報収集を行い避難情報を発令するタイミングなどを見極めていきます。そのため近隣の自治体で避難勧告が発令されたからといって、邑楽町でも発令されるとは限りません。だからこそ、正確な情報を入力する手段を確認してください。繰り返しになりますが、「備え」あつての防災です。

感染症まん延中の避難は在宅避難も視野に
 町が開設する避難所は多くの人々が避難してくると密になる恐れがあり、新型コロナウイルス感染症対策として収容人数を減らす場合があります。そのためにも避難は避難所だけでなく、自宅などでの安全確保が可能な人は在宅避難も視野に入れておいてください。

避

03 避難先への経路や避難所は事前に確認し、家族と共有を

避難は難を避ける行動のことです。避難所に行くことだけが避難ではなく、浸水する可能性が低い場所では、その場にとどまる在宅避難や親戚・知人宅への避難も選択肢の一つです。事前に家族と避難経路や避難所を確認しておくことも大切です。

多様な避難方法

01 自宅での垂直避難や親戚・知人宅への避難

災害リスクが低い場合には在宅で垂直避難することもひとつ。また地震などで住めない状況になった人は、安全が確保できる親戚・知人宅への避難も視野に入れてください。

02 車空間を利用した避難

自宅に被害が出そうな場合は車に避難するのもひとつ。避難が長時間にわたる場合は健康被害に注意してください。ストレッチなどの運動をしましょう。

03 避難所への避難

町が開設する避難所は命を守るために緊急的に避難する場所。起こった災害に対応した避難場所を確認しましょう。

『もしも』の時 命を守る 備え

町の防災マップは家にありますか。そこには災害に備えるために必要な情報が載っています。防災への知識がなければ、非常時の対応が遅れるかもしれません。「もしも」の事態に備えましょう。



↑災害の危険が身近に迫ったときに、すぐに避難出来るよう「非常用持出袋」を用意してください。必要なもののリストは町の防災マップに掲載しています。その他、感染症予防対策として、マスク・消毒液・体温計を追加しておくことで安心です(写真はイメージ)

02 避難開始のタイミング 警戒レベルごとのとるべき行動

集中豪雨や台風などで、町民の皆さんが取るべき行動を直感的に理解できるように、避難勧告などの情報は5段階に分かれています。避難するタイミングの目安にしてください。なお、気象庁が発表する「大雨特別警報」などが出ていても、避難情報が発令されない場合もあります。

警戒レベル	避難情報・とるべき行動
警戒レベル5	災害発生情報 すでに災害が発生している状況。命を守る最善の行動が必要。
警戒レベル4	避難勧告/避難指示 災害が発生する危険度が非常に高い、または被害が発生し始めた状況。全員が速やかに避難を開始。
警戒レベル3	避難準備・高齢者等避難開始 避難に時間がかかる人は避難開始。身の危険を感じたら、自発的に避難をすること。
警戒レベル2 注意報	(気象庁が発表) 防災マップなどで避難所や経路の確認を行い、避難に備える。
警戒レベル1 早期注意報	(気象庁が発表) 5日先までに警報級の現象が予想される。最新の気象情報などに注意を向け、災害への心構えを高める。

邑楽町が発令

01 町の防災マップで 自宅付近の危険性を確認

自宅付近のリスクを事前に知っておくことは、防災への第一歩です。近くに倒れやすいものはないか、水があふれそうな川や水路はどこか、事前に確認しておくことが大切です。まずは、町が発行する「防災マップ」を確認してみてください。



【邑楽町防災マップ】

町では平成30年に防災マップを一新。千年に一度の雨量を想定した浸水想定図の他、防災に役立つ情報を掲載しています。役場安全安心課で配布している他、町ホームページから確認できます。

災

害はいつ
起るかわ
誰にもわ
かりません。「災害
は発生しないから大丈夫」
「邑楽町は安全だから大丈夫」
と油断していると逃げ遅れて被災するなど、取り返しのつかない事態が起こってしまうかもしれません。

自分や家族の命を守るためにも、日頃から災害に備えておくことが大切。「備え」は難しいことではありません。上に示したとおり、まずは町が発行する防災マップを確認してみてください。防災に関するさまざまな情報が載っています。また、災害発生時の行動などを事前に家族と話し合っておくことも必要です。「避難所はどこにあるか、避難経路はどの



役場安全安心課 交通防災係 中村 和典 さん

災害時に必要な

情報を受け取る手段

災害発生時には正確な情報を随時受け取り、避難などに備えておくことも重要です。町では、さまざまな情報発信手段で災害情報を伝えます。事前に確認して、災害時に備えてください。

正

確な情報をいち早くキャッチし、現在の状況を把握しておく

ことが災害時には必要です。

町では、防災行政無線や戸別受信機、Lアラート、町ホームページ、おうらお知らせメール、町公式ツイッターアカウントなど、さまざまな手段で情報発信しています。

それぞれの情報発信には、長

所・短所があります。例えば、

「防災行政無線が大雨で聞こえない」「停電でテレビがつかない」など災害時には、日常では考えられない状況が起こります。そのためにもあらゆる手段で情報入手し、自分の命を守る方法を考えてお

いてください。情報

も命綱の一つと考えてお

01 防災行政無線

災害時の情報を迅速に伝える手段として、町内48地点に設置しています。大規模災害時には最大音量で放送します。

Jアラートの試験放送を実施

全国一斉に試験放送を行います。

日時▶8月5日(水)午前11時～

02 戸別受信機

防災行政無線の情報をラジオのよう



03 Lアラート

緊急時に県や市町村などが、情報を発信する仕組み。テレビやラジオ、スマートフォン、インターネットなどのさまざまなメディアを通じて情報入手することができます。



テレビの場合はリモコンのdボタンから表示



町との災害協定締結により

町からの緊急情報をYahoo!防災速報に配信

避難に関する情報や注意喚起などの災害時の緊急情報を配信します。



最悪を想定しておく 二つのツール

ハザードマップが地図上で確認できる ハザードマップポータルサイト

大雨によって起こる河川の氾濫など、想定される災害リスクを地図上に重ねて表示できる「重ねるハザードマップ」を見ることができます。



浸水する時間を想定できる

浸水ナビ

河川の堤防が決壊した後、地図上のエリアがどのくらいの時間で浸水するのかを調べることができます。



04 町ホームページ

町のホームページは、緊急時に災害モードに切り替わります。緊急情報がページ上部に表示されます。



05 おうらお知らせメール

おうらお知らせメールは、パソコンやスマートフォン、携帯電話の登録されたメールアドレスに情報を配信する手段です。登録方法など、不明な点は(役場企画課■47-5008)までお問い合わせください。登録のお手伝いをします。

携帯電話
QRコード



スマホ
QRコード



06 町公式ツイッター

おうらお知らせメールで配信する情報を簡潔につぶやきます。より詳しい情報は、ツイートに掲載するリンク先から取得してください。

ツイッター
QRコード

